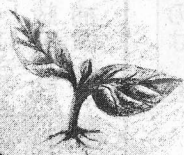


少し見づらいかもしれませんが、綿花に寄り添うようにバジルが植わっているのがわかるでしょうか? 写真。今年、いわきおてんとSUN企業組合の畑では、コンパニオンプランツ(共栄作物)の実験をしています。害虫被害や生育不良など、栽培に伴う悩みを何か別の作物と一緒に育てることで解決できないかと取り組んでいます。バジルやルッコラなど、さまざまな作物と綿花を混植し生育過程を調べています。その他、肥料や栽培方法を変えたりするなど、さまざまな変化をつけて栽培をしています。

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」ではオーガニックコットン製品をつくっており、被災地での活動

## 東北復興日記



いわきおてんとSUN企業組合  
松本幸子さん



150

# 「いい綿」作りを追求

というところで発信の機会も多くあります。けれども、発信や戦略も大事だとは思いますが、綿花だって農作物です。まずは「いい綿」を作れない



と高い付加価値の製品へと加工することもできないのではないかと思います。まずは「良い農産物」もしくは「良い商品」があつてこそ、ストーリーがあつてきて、地域を支える農業や産業、魅力になるのだと思います。

農業は土づくり、とよくいわれますが、いい農産物をつくるには長い時間がかかります。ましてや、日本では希少な作物となつてしまった綿花では、「いい綿」という定義からしてあやふやです。それに、社会の時間はあつという間に過ぎていきますが、植物の時間はゆっくりです。一

年に一度しか綿は収穫できませんし、栽培の実験も行えません。改善にも時間がかかります。

移り変わる世相の中で、ゆっくりとしか成長しない綿花に焦れることもありそうです。けれども、彼らがゆっくりでも、確かに成長してこちらの働きかけに反応してくれることに、毎日小さな感動を覚えています。少しずつでも、後退はせずに進んでいる彼らに力をもろう日々、あらためて「いい綿をつくりたい」と思っています。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。